

介護職員初任者研修カリキュラム

事業者名 社会福祉法人 南足柄市社会福祉協議会

研修事業の名称 南足柄市社会福祉協議会介護職員初任者研修通学コース

1 職務の理解 (6 時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 多様なサービスの理解	3 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険によるサービス 居宅、施設 の種類と、サービスが提供される場の特性について学習する。 ・介護保険外サービスの種類と、サービスが提供される意義や目的について学習する。 <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な施設やホームでの利用者事例をもとにグループワークにて討論を行い発表する。
②介護職の仕事内容や働く現場の理解	3 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居宅、施設の多様な働く現場におけるサービスの内容や利用者像を通じて、介護職の仕事内容や働く現場の具体的なイメージをもつことができるようにする。 ・ケアマネジメントを通じて、介護サービス提供に至るまでの流れを学習する。 ・他職種とのチームアプローチの必要性や、介護保険外サービスを含めた、地域の社会資源との具体的な連携方法を学習する。
合計	6 時間	

2 介護における尊厳の保持・自立支援 (9 時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①人権と尊厳を支える介護 (1)	3 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人が有する基本的権利について学び、介護を必要とする状態となっても、個人として尊重され、尊厳のある暮らしを営む権利をもつことを学習する。 ・ICFについて概説し、介護分野における意義や、活用方法などについて学習する。 ・利用者の生活の質を向上させるためのQOLの考え方、ノーマライゼーションの理念について学習する。 ・虐待防止（高齢者・障害者の防止法の種類）・身体拘束禁止について学習する。
①人権と尊厳を支える介護 (2)	3 時間	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の権利を守る制度である、成年後見制度、日常生活自立支援事業の概要について学習する。 <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な事例をもとにグループワークにて討論と発表を行う。
②自立に向けた介護	3 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立・自律のとらえ方、自立支援の意義について学習する。 ・自立支援が重度化防止に資することなど、その意義や必要性を学習する。 ・具体的事例を用いて、自立支援の視点、残存能力の活用、介護予防（重度化の防止・遅延化）の考え方を学習する。 ・利用者の残存能力を活用するためには、意欲を高める支援の必要性があり、動機と欲求が不可欠であることを学習する。 ・利用者の個別性に基づいた、個別ケアの重要性について学習する。
合計	9 時間	

3 介護の基本 (6 時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①介護職の役割、専門性と多職種との連携	1.5 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケアの方向性について概説する。 ・重度化防止・遅延化の視点、利用者主体の支援姿勢などについて学習する。 ・自立した生活を支えるための支援姿勢について学習する。 ・根拠に基づいた介護の展開の流れについて学習する。 ・チームケアの重要性について学習する。 ・事業所内のチームケアの重要性について、具体例をもとに学習する。
②介護職の職業倫理	1.5 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門職の倫理の意義について概説し、介護の倫理（介護福祉士の倫理と介護福祉士制度等）について学習する。 ・介護職としての社会的責任を踏まえ、プライバシーの保護と尊重について学習する。 <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門職の倫理面から利用者とかかわる際のロールプレイを行い、知識を深める。
③介護における安全の確保とリスクマネジメント	1.5 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護における安全の確保の重要性を踏まえ、事故に結びつく要因と、それを探り対応していく技術について学習する。 ・事故のリスクとハザードの視点から、事故予防としてのリスクマネジメントについて学習する。 ・発生した事故についての分析の手法と視点について学習する。 ・事故に至った経緯の報告（家族への報告、市町村への報告）の必要性と方法および、再発防止のための情報共有のあり方について学習する。 ・「感染」に対する正しい知識を学び、感染の原因と経路について、感染源の排除、感染経路の遮断の方法について学習する。
④介護職の安全	1.5 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職の健康管理が介護の質に影響してしまうことを学習する。 ・介護職に多くみられるこころの病気と、ストレスマネジメントについて学習する。 ・介護職に多くみられるからだの病気としての腰痛とその予防について学習する。 ・手洗い・うがいの励行の重要性と、正しい手洗いの基本について学習する。 ・感染症対策の方法について学習する。
合計	6 時間	

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（9 時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①介護保険制度	3 時間	<p>《講義内容》 配信映像を視聴して学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域包括ケアシステムの推進について学習する。 ・ 保険制度としての基本的仕組みを概説し、給付の仕組み（介護給付とその種類、予防給付）、要介護認定の手順について学習する。
②医療との連携とリハビリテーション	3 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医行為に抵触する可能性のある介護について学習するとともに、介護職がおこなうことのできる医行為について学習する。 ・ 訪問看護について学習する。 ・ 施設における介護職と看護職の役割・連携について学習する。 ・ リハビリテーションの理念、目的、考え方について理解する。 <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多職種との連携方法の事例をもとに学習する。
③障害福祉制度およびその他制度	3 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害の概念、ICF（国際生活機能分類）に基づくとらえ方、自立のとらえ方を通じて、障害者福祉制度の理念について学習する。 ・ 障害者総合支援制度における、介護給付、訓練等給付、地域生活支援事業など、給付について学習し、申請から支給決定までの流れについて学習する。 ・ 個人の権利を守る制度として、個人情報保護法、成年後見制度、日常生活自立支援事業について学習する。
合計	9 時間	

5 介護におけるコミュニケーション技術 (6 時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①介護におけるコミュニケーション	3 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割について学習する。 ・相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮の必要性について学習する。 ・傾聴、共感、受容などのコミュニケーションの技法について学習する。 ・言語的コミュニケーションおよび非言語コミュニケーションの特徴について学習する。 ・利用者の思いを把握すること、意欲低下の要因を考えると、利用者の感情に共感することなどの、利用者とのコミュニケーションの実際について学習する。 ・家族の心理的理解を踏まえ、家族へのいたわりと励まし、信頼関係の形成、自分の価値観で家族の意向を判断し避難することがないように対応することの大切さなど、家族とのコミュニケーションの実際について学習する。 ・利用者、家族の思いを踏まえたアセスメントの手法と、ニーズとデマンドとの違いについて学習する。 <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者や家族とのコミュニケーション技術を具体的な事例でロールプレイを行う。
②介護におけるチームのコミュニケーション	3 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告・連絡・相談の留意点について学習する。 ・記録における情報の共有化について学習する。 ・コミュニケーションを促す環境について学習する。 ・カンファレンス（会議）の意義について学習する。 <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護記録について実際に各自作成し記載方法を学ぶ。 ・ケアカンファレンスについて、ロールプレイを行う。
合計	6 時間	

6 老化の理解（6時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①老化に伴うこころとからだの変化と日常	3時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老化に伴う心身の変化の特徴について、防衛反応（反射）の変化、喪失体験などを踏まえて学習する。 ・老化に伴う身体的機能の変化と日常生活への影響について学習する。 ・咀嚼機能の低下、筋・骨・関節の変化、体温維持機能の変化など、生理的側面の知識について学習する。 ・精神的機能の変化と日常生活への影響について学習する。 <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老年期の喪失体験とはどんなことか、講師の事例をもとに討議を行う。
②高齢者と健康	3時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・骨折、筋力の低下と動き・姿勢の変化、関節痛など、高齢者の疾病と生活上の留意点について学習する。 ・循環器障害（脳梗塞、脳出血、虚血性心疾患）とその危険因子と対策について学習する。 ・老年期うつ病の症状（強い不安感、焦燥感を背景に「訴え」の多さが全面に出るなど）や、うつ病性仮性認知症について学習する。 ・誤嚥性肺炎、感染症など高齢者に多い病気と、小さな変化に気づく視点について学習する。
合計	6時間	

7 認知症の理解(6時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 認知症を取り巻く状況	1時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ パーソンセンタードケアをはじめとした、認知症ケアの理念について学習する。 ・ 認知症ケアの視点について学習する（できることに着目する視点）。
② 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症の定義について学習する。 ・ 認知症による記憶障害ともの忘れとの違いについて学習する。 ・ せん妄の症状について学び、認知症との違いについて学習する。 ・ 認知症の原因疾患とケアのポイントについて学習する。 ・ 認知症の人の健康管理（脱水・便秘・低栄養・低運動の防止、口腔ケア）について学習する。 ・ 薬物療法（認知症に使用される薬）や非薬物療法など、認知症の治療について学習する。
③ 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症の中核症状と行動・心理症状（BPSD）について学習する。 ・ 不適切なケアと生活環境のなかで改善を図る視点について学習する。 ・ 認知症の利用者への対応の仕方を学習する（本人の気持ちを推察する、プライドを傷つけない、相手の世界に合わせる、失敗しないような状況をつくる）。 ・ 認知症の利用者に対するすべての援助行為がコミュニケーションであることを学び、身体を通したコミュニケーションの意義について学習する。 ・ 認知症の利用者を理解するための視点（相手の様子・表情・視線・姿勢などから気持ちを洞察するなど）について学習する。 ・ 認知症の進行に合わせたケアのポイントについて学習する。 <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護者のケア事例と利用者を理解するケア事例をグループワークにて討議と発表を行う。
④ 家族への支援	1時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症の受容過程に必要な家族へのエンパワメントについて学習する。 ・ 介護負担を軽減するためのレスパイトケアについて学習する。
合計	6時間	
8 障害の理解(3時間)		

項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 障害の基礎的理解	1 時間	〈講座内容〉 <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害の概念とICFの考え方について学習する。 ・ ICFの分類と医学的分類について学習する。 ・ ノーマライゼーションなど、障害者福祉の基本理念について学習する。
②障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1 時間	〈講義内容〉 <ul style="list-style-type: none"> ・ 身体障害（視覚障害、聴覚・平衡障害、音声・言語・咀嚼障害、肢体不自由、内部障害）について学習する。 ・ 知的障害について学習する。 ・ 精神障害（統合失調症・気分(感情障害)・依存症、高次脳機能障害）について学習する。 ・ 発達障害（広汎性発達障害・学習障害・注意欠陥多動性障害など）について学習する。 ・ その他の心身の機能障害について学習する。
③家族の心理、かかわり支援の理解	1 時間	〈講義内容〉 <ul style="list-style-type: none"> ・ 家族が障害を理解し、受容するための支援について学習する。 ・ 介護負担の軽減としてのレスパイトサービスの方法について学習する。 〈演習内容〉 <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害の受容のプロセスと家族支援の考え方について討議共有を行う。
合計	3 時間	

9 こころとからだのしくみと生活支援技術（75 時間）			
基本知識の学習	項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
	①介護の基本的な考え方	3 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理論に基づく介護（ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除）の必要性について学習する。 ・根拠（法的・科学的）に基づく介護の必要性について学習する。
	②介護に関するこころのしくみの基礎的理解	3 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感情と意欲の基礎知識について学習する。 ・自己概念と生きがいについて学習する。 ・老化や障害を受け入れる適応行動と阻害要因について学習する。 ・からだやこころの持ち方が行動に与える影響について学習する。 <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題行動のある事例をもとにグループワークで討議を行い発表する。
	③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	3 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人体の各部の名称と動きに関する基礎知識について学習する。 ・骨・関節・筋に関する基礎知識とボディメカニクスの活用について学習する。 ・こころとからだを一体的に捉える視点について学習する。 ・利用者の日常生活の状態、様子を把握する事の重要性、普段との違いに気づく視点について学習する。 <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボディメカニクスの活用方法を習得し身体を守る姿勢を学ぶ。
生活支援技術の講義・演習	① 生活と家事	2 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活を継続していくための家事の重要性について学習する。 <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活援助（家事支援）での事例をもとにグループワークで意見交換を行い発表する。
	⑤快適な居住環境整備と介護	1.5 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザインとバリアフリーについて学習する。 ・家庭内に多い事故や住宅改修について学習する。 ・福祉用具に関する留意点と給付の利用方法を学習する。 <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の現在の住居は高齢者にとって危険と考えられる箇所があるかグループワーク討議を行う。

<p>⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護（1）</p>	<p>3時間</p>	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整容に関する基礎知識、整容の支援技術について学習する(身体状況に合わせた身じたく、整容行動、洗面の意義・効果)。 <p>〈演習内容〉</p> <p>※具体的な事例をもとに、指示や根拠に基づいて部分的な整容の介護演習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 部分清拭(顔拭き)の介助 ② 整髪の介助 ③ 爪切りの介助
<p>⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護（2）</p>	<p>5時間</p>	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衣服着脱の原則や選択方法を学習する。 <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体状況に合わせた衣服の選択や着脱(一部介助・片麻痺・全介助)の介護 <p>※具体的な事例をもとに、指示や根拠に基づいて部分的な着脱の介護演習を行い演習後半で習得度評価を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 前開きの上衣の着脱 ② ズボンの着脱 ③ 病衣の着脱

<p>⑦移動・移乗に関連した ところとからだのしく みと自立に向けた介護 (1)</p>	<p>3.5 時間</p>	<p>〈講義内容〉 ・残存能力の活用・自立支援、ボディメカニクスの基本原理、 利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法、利用者の自然な 動きの活用、重心・重力の動きの理解などの移動・移乗に関 する基礎知識について学習する。 〈演習内容〉 ※具体的な事例をもとに、指示や根拠に基づいて部分的な介 護演習を行う。 ① ボディメカニクスの種類 ② 体位の種類 ③ 立ち上がり動作</p>
<p>⑦移動・移乗に関連した ところとからだのしく みと自立に向けた介護 (2)</p>	<p>3時間</p>	<p>〈講義内容〉 ・利用者、介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害する ところとからだの要因と支援方法について学習する。 ・移動・移乗に関する技術と福祉用具の活用方法を理解する。 〈演習内容〉 ※具体的な事例をもとに、指示や根拠に基づいて部分的な介 護演習を行う。演習後半で習得度評価を行う。 ベッド上での体位変換の介護 ① 側臥位への体位変換 ② ベッド上での水平・垂直移動 ③ 仰臥位→長座位→端座位への移動</p>
<p>⑦移動・移乗に関連した ところとからだのしく みと自立に向けた介護 (3)</p>	<p>4時間</p>	<p>〈講義内容〉 ・車イスや歩行器の活用方法を学習する。 ・用具を使った移動・移乗に関する技術と活用方法を理解する。 〈演習内容〉 ※具体的な事例をもとに、指示や根拠に基づいて部分的な介 護演習を行う。演習後半で習得度評価を行う。 移乗介助の具体的な方法の介護 ① 一部介助でのベッド・車いす間の移乗 ② 全面介助でのベッド・車いす間の移乗 移動介助の具体的な方法の介護 ① 車いす介助(段差・坂・エレベーターでの介助方法)</p>

<p>⑦移動・移乗に関連した ところとからだのしくみ と自立に向けた介護 (4)</p>	<p>3時間</p>	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・杖とその活用方法について学習する。 ・移動・移乗を困難にする要因について学習する。 ・褥瘡の分類と対応を学習する。 ・移動・移乗を困難にする精神機能の低下について学習する。 ・社会参加の留意点と支援方法を学習する。 <p>〈演習内容〉</p> <p>※具体的な事例をもとに、指示や根拠に基づいて部分的な介護演習を行う。演習後半で習得度評価を行う。</p> <p>移動介助の具体的な方法の介護</p> <p>① 半身麻痺の利用者の杖歩行（段差・階段の介助）</p>
<p>⑧食事に関連したところ とからだのしくみと 自立に向けた介護（1）</p>	<p>3時間</p>	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事に関する基礎知識（食事をする意味、食事のケアに対する介護者の意識）について学習する。 ・食事に関連したからだのしくみ（低栄養・脱水の弊害、咀嚼・嚥下のメカニズム）について学習する。 ・食事に関する心理的な理解（空腹感、満腹感、好み）について学習する。 ・楽しい食事を阻害するところとからだの要因と支援方法について学習する。 ・食事と社会参加の留意点と支援について学習する。
<p>⑧食事に関連したところ とからだのしくみと 自立に向けた介護（2）</p>	<p>4.5 時間</p>	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事に関する環境整備（食事の時間・場所等、食事の姿勢）について学習する。 ・食事に関する福祉用具の活用と介助方法について学習する。 ・誤嚥性肺炎の予防の視点と、口腔ケアの重要性、方法について学習する。 <p>〈演習内容〉</p> <p>※具体的な事例をもとに、指示に基づいて食事の介護の演習を行う。演習後半で習得度評価を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 食事の介護 2 飲水の介護 3 口腔ケアの介護

<p>⑨入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護（１）</p>	<p>3時間</p>	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入浴に関する基礎知識（入浴・清潔保持の意義、体調確認の視点、羞恥心や遠慮への配慮など）について学習する。 ・目・鼻腔・耳・爪の清潔方法と留意点について学習する。 ・足浴・手浴の方法と留意点について学習する。 ・入浴用具、整容用具の種類や活用方法について学習する。 <p>〈演習内容〉</p> <p>※具体的な事例をもとに、指示に基づいて入浴の介護の演習を行う。演習後半で一部習得度評価を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 入浴の介護（全身浴・半身浴と浴槽への出入り） 2 手浴・足浴の介護
<p>⑨入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護（２）</p>	<p>5時間</p>	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洗髪方法と留意点について学習する。 ・全身清拭（身体状況の確認、室内環境の調整、使用物品の準備と使用方法、全身の拭き方、身体の支え方）について学習する。 ・臥床状態での陰部洗浄の方法と留意点について学習する。 ・目・鼻腔・耳・爪の清潔方法と留意点について学習する。 <p>〈演習内容〉</p> <p>※具体的な事例をもとに、指示に基づいて入浴の介護の演習を行う。演習後半で一部習得度評価を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 洗髪の介護（臥床状態での介護） 2 清拭の介護
<p>⑩排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護（１）</p>	<p>3時間</p>	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間における排泄とは。 ・排泄に関する身体的（生理的）側面について学習する。 ・排泄に関する心理的側面（プライド・羞恥心、プライバシーの確保、心理的負担・尊厳や生きる意欲との関連）について学習する。 ・トイレ介助の方法について学習する。 <p>〈演習内容〉</p> <p>※具体的な事例をもとに、指示に基づいて排泄の介護の演習を行う。演習後半で一部習得度評価を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的方法 ポータブルトイレ介助 2 全面介助での車いす・洋式トイレ（ポータブルトイレ）間の移乗

<p>⑩排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護（２）</p>	<p>5時間</p>	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・尿器・差し込み便器による排泄介助について学習する。 ・オムツ交換の方法を学習する。 ・排泄に関する社会的側面（排泄障害が日常生活に及ぼす影響、おむつ使用の弊害）について学習する。 ・排泄環境整備と排泄用具の活用方法について学習する。 ・便秘の予防（水分の摂取量保持、食事内容の工夫、腹部マッサージ）について学習する。 <p>〈演習内容〉</p> <p>※具体的な事例をもとに、指示に基づいて排泄の介護の演習を行う。演習後半で一部習得度評価を行う。</p> <p>1 おむつ交換(臥床状態での陰部清浄含む) (尿器、差し込み便器介助はデモのみ実施)</p>
<p>⑪睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護（１）</p>	<p>2時間</p>	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・睡眠の必要性と、睡眠に関するこころとからだのしくみを学習する。 ・睡眠のメカニズムについて学習する。 ・快い睡眠を阻害するこころとからだの要因と支援方法を学習する。
<p>⑪睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護（２）</p>	<p>1.5時間</p>	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安眠と居室のための環境整備を事例や実技を合わせて学習する。 <p>〈演習内容〉</p> <p>※ベッドメイキング、シーツ交換の演習を行い演習後半で一部習得度評価を行う。</p> <p>1 ベッドメイキング 2 臥床している状態でのシーツ交換</p>
<p>⑫死にゆく人に関したこころとからだのしくみと終末期介護（１）</p>	<p>2時間</p>	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・終末期に関する基礎知識について概説し、終末期ケアについて学習する。 ・終末期におけるからだのしくみ（生から死への過程）について学習する。 ・終末期におけるこころのしくみ（「死」に向き合うこころの理解）について学習する。 ・高齢者の死に至る過程（高齢者の自然死（老衰）、癌死）について学習する。 ・臨終が近づいたときの兆候と介護について学習する。 ・苦痛の少ない死への支援について学習する。 <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例をもとにグループワークにて「終末期ケアにおける介護」について考え、他のグループと意見を共有する。

	⑫死にゆく人に関する こころとからだのしく みと終末期介護（2）	1時間	〈演習内容〉 ・事例をもとにグループワークにて「終末期ケアにおける介護」について考え、他のグループと意見を共有する。
生活 支援 技術 演習	⑬介護過程の基礎的理 解（1）	2時間	〈講義内容〉 ・介護過程の目的・意義・展開を学習する。 ・介護過程の展開方法や考え方、情報収集などを学習する。 〈演習内容〉 ・具体的な個別事例をもとに、各自で個別支援計画書を作成する。
	⑬介護過程の基礎的理 解（2）	2時間	〈講義内容〉 ・介護過程を通じてチームアプローチの重要性と方法を学習する。 ・専門職同士の連携の重要性を学習する。 〈演習内容〉 ・チームにおける支援の事例をもとにグループワークにて討議し発表を行う。
	⑭総合生活支援技術演 習（1）	3時間	〈講義内容〉 ・技術演習にあたり留意することを学習する。 ・高齢者（要支援2程度、認知症、片麻痺、座位保持不可）から1事例を提示し、9⑬の授業を復習しながら、利用者の心身の状況に合わせた介護の考え方について説明する。 〈演習内容〉 ・こころとからだの力が発揮できない要因の分析（アセスメント）→適切な支援技術の検討（計画立案）→支援技術演習（実施）→支援技術の課題（評価）の一連の流れをグループごとに討議と実技を行う。
	⑭総合生活支援技術演 習（2）	4時間	〈講義内容〉 ・高齢者（要支援2程度、認知症、片麻痺、座位保持不可）から1事例を提示し、9⑬の授業を復習しながら、利用者の心身の状況に合わせた介護の考え方について説明する。 〈演習内容〉 ・こころとからだの力が発揮できない要因の分析（アセスメント）→適切な支援技術の検討（計画立案）→支援技術演習（実施）→支援技術の課題（評価）の一連の流れをグループごとに討議と実技を行う。
実習			

合計	75 時間	
10 振り返り (4 時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 振り返り	2 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修を通じて学んだこと今後継続して学ぶことの確認。 ・根拠に基づく介護についての要点を再確認する(利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等)。 <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに研修前に描いていた介護のイメージと、研修を通じた介護のイメージの変化をグループワークにて意見交換を行う。
②就業への備えと研修修了後における継続的な研修	2 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修終了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における事例 (Off-JT、OJT) を紹介しながら、就業への備えについて説明する。 ・介護職員のキャリアパスについて概説し、継続的に学習すること重要性について説明する。
合計	4 時間	
全カリキュラム合計時間	130 時間	

※規定時間数以上のカリキュラムを組んでもかまわない。

※本研修で独自に追加した科目には、科目名の前に「追加」と表示すること。

講 師 一 覧

事業者名

研修事業の名称

令和 6 年 6 月 7 日 現在

科目番号／科目名 項目番号／項目名	講師名 * 演習の補助講師は (補助講師) と記載	資格等
1 職務の理解 ① 多様なサービスの理解	加藤浩司	介護支援専門員
	木村直樹	社会福祉士・介護福祉士
	吉田修平	社会福祉士・介護支援専門員
	廣川啓子	介護福祉士・介護支援専門員
1 職務の理解 ② 介護職の仕事内容や働く現場 の理解	木村直樹	社会福祉士・介護福祉士
	吉田修平	社会福祉士・介護支援専門員
	廣川啓子	介護福祉士・介護支援専門員
	中村陽子	介護福祉士
2 介護における尊厳の保持・自立 支援 ① 人権と尊厳を支える介護 (1)	鳥海忠明	介護福祉士
	木村直樹	社会福祉士・介護福祉士
	平川恵理子	社会福祉士・精神保健福祉士
	奥津弘美	看護師
2 介護における尊厳の保持・自立 支援 ① 人権と尊厳を支える介護 (2)	鳥海忠明	介護福祉士
	木村直樹	社会福祉士・介護福祉士
	平川恵理子	社会福祉士・精神保健福祉士
	奥津弘美	看護師
2 介護における尊厳の保持・自立 支援 ② 自立に向けた介護	金盛智也	介護福祉士・介護支援専門員
	廣川啓子	介護福祉士・介護支援専門員
	中村陽子	介護福祉士
	奥津弘美	看護師
	木村直樹	社会福祉士・介護福祉士
3 介護の基本	鳥海忠明	介護福祉士

① 介護職の役割、専門性と多職種との連携	中村陽子	介護福祉士
	田崎智子	介護福祉士
	木村直樹	社会福祉士・介護福祉士
	廣川啓子	介護福祉士・介護支援専門員
3 介護の基本 ② 介護職の職業倫理	鳥海忠明	介護福祉士
	中村陽子	介護福祉士
	田崎智子	介護福祉士
	木村直樹	社会福祉士・介護福祉士
	廣川啓子	介護福祉士・介護支援専門員
3 介護の基本 ③ 介護における安全の確保とリスクマネジメント	モルトビー利江	看護師
	奥津弘美	看護師
	中村陽子	介護福祉士
	田崎智子	介護福祉士
	木村直樹	社会福祉士・介護福祉士
3 介護の基本 ④ 介護職の安全	モルトビー利江	看護師
	奥津弘美	看護師
	中村陽子	介護福祉士
	田崎智子	介護福祉士
	木村直樹	社会福祉士・介護福祉士
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 ① 介護保険制度	木村直樹	社会福祉士・介護福祉士
	吉田修平	社会福祉士・介護支援専門員
	廣川啓子	介護福祉士・介護支援専門員
	平川恵理子	社会福祉士・精神保健福祉士
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 ② 医療との連携とリハビリテーション	舟橋庄司	言語聴覚士
	奥津弘美	看護師
	吉田修平	社会福祉士・介護支援専門員
	金盛智也	介護福祉士・介護支援専門員

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 ③ 障害福祉制度およびその他制度	竹迫篤司	社会福祉士
	小野塚晃太郎	精神保健福祉士・相談支援専門員
	木村直樹	社会福祉士・介護福祉士
	廣川啓子	介護福祉士・介護支援専門員
5 介護におけるコミュニケーション技術 ① 介護におけるコミュニケーション	鳥海忠明	介護福祉士
	吉田修平	社会福祉士・介護支援専門員
	中村陽子	介護福祉士
	田崎智子	介護福祉士
	小泉真美	介護福祉士
	及川浩子	介護福祉士
5 介護におけるコミュニケーション技術 ② 介護におけるチームのコミュニケーション	鳥海忠明	介護福祉士
	吉田修平	社会福祉士・介護支援専門員
	中村陽子	介護福祉士
	田崎智子	介護福祉士
	小泉真美	介護福祉士
	及川浩子	介護福祉士
6 老化の理解 ① 老化に伴うこころとからだの変化と日常	奥津弘美	看護師
	吉田修平	社会福祉士・介護支援専門員
	廣川啓子	介護福祉士・介護支援専門員
	中村陽子	介護福祉士
	田崎智子	介護福祉士
6 老化の理解 ② 高齢者と健康	高川広子	看護師
	木村直樹	社会福祉士・介護福祉士
	奥津弘美	看護師
	中村陽子	介護福祉士
	田崎智子	介護福祉士
	山崎朋佳	介護福祉士

7 認知症の理解 ① 認知症を取り巻く状況	森田壮一	介護福祉士
	廣川啓子	介護福祉士・介護支援専門員
	吉田修平	社会福祉士・介護支援専門員
	中村陽子	介護福祉士
	田崎智子	介護福祉士
	鳥海忠明	介護福祉士
7 認知症の理解 ② 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	森田壮一	介護福祉士
	廣川啓子	介護福祉士・介護支援専門員
	吉田修平	社会福祉士・介護支援専門員
	中村陽子	介護福祉士
	田崎智子	介護福祉士
	鳥海忠明	介護福祉士
7 認知症の理解 ③ 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	森田壮一	介護福祉士
	廣川啓子	介護福祉士・介護支援専門員
	吉田修平	社会福祉士・介護支援専門員
	中村陽子	介護福祉士
	田崎智子	介護福祉士
	鳥海忠明	介護福祉士
7 認知症の理解 ④ 家族への支援	森田壮一	介護福祉士
	廣川啓子	介護福祉士・介護支援専門員
	吉田修平	社会福祉士・介護支援専門員
	中村陽子	介護福祉士
	田崎智子	介護福祉士
	鳥海忠明	介護福祉士
8 障害の理解 ① 障害の基礎的理解	露木とし	介護福祉士・社会福祉士
	中村陽子	介護福祉士
	小野塚晃太郎	精神保健福祉士

	平川恵理子	社会福祉士・精神保健福祉士
	吉田修平	社会福祉士・介護支援専門員
8 障害の理解 ② 障害の医学的側面、生活障害、 心理・行動の特徴、かかわり支 援等の基礎的知識	露木とし	介護福祉士・社会福祉士
	中村陽子	介護福祉士
	小野塚晃太郎	精神保健福祉士
	平川恵理子	社会福祉士・精神保健福祉士
	吉田修平	社会福祉士・介護支援専門員
8 障害の理解 ③ 家族の心理、かかわり支援の理 解	露木とし	介護福祉士・社会福祉士
	中村陽子	介護福祉士
	小野塚晃太郎	精神保健福祉士
	平川恵理子	社会福祉士・精神保健福祉士
	吉田修平	社会福祉士・介護支援専門員
9 こころとからだのしくみと生活 支援技術 ① 介護の基本的な考え方	金盛智也	介護福祉士・介護支援専門員
	中村陽子	介護福祉士
	田崎智子	介護福祉士
	廣川啓子	介護福祉士・介護支援専門員
9 こころとからだのしくみと生活 支援技術 ② 介護に関するこころのしくみ の基礎的理解	金盛智也	介護福祉士・介護支援専門員
	中村陽子	介護福祉士
	田崎智子	介護福祉士
	廣川啓子	介護福祉士・介護支援専門員
9 こころとからだのしくみと生活 支援技術 ③ 介護に関するからだのしくみ の基礎的理解	金盛智也	介護福祉士・介護支援専門員
	中村陽子	介護福祉士
	田崎智子	介護福祉士
	廣川啓子	介護福祉士・介護支援専門員
9 こころとからだのしくみと生活 支援技術 ④ 生活と家事	中村陽子	介護福祉士
	田崎智子	介護福祉士

	小泉真美	介護福祉士
	及川浩子	介護福祉士
	山崎朋佳	介護福祉士
9 こころとからだのしくみと生活 支援技術	中村陽子	介護福祉士
⑤ 快適な居住環境整備と介護	金盛智也	介護福祉士・介護支援専門員
	木村直樹	社会福祉士・介護福祉士
	吉田修平	社会福祉士・介護支援専門員
	廣川啓子	介護福祉士・介護支援専門員
9 こころとからだのしくみと生活 支援技術	中村陽子	介護福祉士
⑥ 整容に関連したこころとから だのしくみと自立に向けた介 護（1）	田崎智子	介護福祉士
	小泉真美	介護福祉士
	及川浩子	介護福祉士
	山崎朋佳	介護福祉士
9 こころとからだのしくみと生活 支援技術	中村陽子	介護福祉士
⑥ 整容に関連したこころと か らだのしくみと自立に向けた 介護（2）	田崎智子	介護福祉士
	小泉真美	介護福祉士
	及川浩子	介護福祉士
	山崎朋佳	介護福祉士
9 こころとからだのしくみと生活 支援技術	金盛智也	介護福祉士・介護支援専門員
⑦ 移動・移乗に関連したこころと からだのしくみと自立に向け た介護（1）	中村陽子	介護福祉士
	田崎智子	介護福祉士
	小泉真美	介護福祉士
	及川浩子	介護福祉士
	山崎朋佳	介護福祉士
9 こころとからだのしくみと生活 支援技術	金盛智也	介護福祉士・介護支援専門員
⑦ 移動・移乗に関連したこころと からだのしくみと自立に向け	中村陽子	介護福祉士
	田崎智子	介護福祉士

た介護（２）	小泉真美	介護福祉士
	及川浩子	介護福祉士
	山崎朋佳	介護福祉士
⑦ 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護（３）	金盛智也	介護福祉士・介護支援専門員
	中村陽子	介護福祉士
	田崎智子	介護福祉士
	小泉真美	介護福祉士
	及川浩子	介護福祉士
	山崎朋佳	介護福祉士
⑦ 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護（４）	金盛智也	介護福祉士・介護支援専門員
	中村陽子	介護福祉士
	田崎智子	介護福祉士
	小泉真美	介護福祉士
	及川浩子	介護福祉士
	山崎朋佳	介護福祉士
⑧ 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護（１）	川上優貴	介護福祉士
	岩田健吾	介護福祉士
	乙部恵子	管理栄養士
	中村陽子	介護福祉士
	田崎智子	介護福祉士
	小泉真美	介護福祉士
	及川浩子	介護福祉士
	山崎朋佳	介護福祉士
	奥津弘美	看護師
⑧ 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護（２）	川上優貴	介護福祉士
	岩田健吾	介護福祉士

だのしくみと自立に向けた介護（２）	乙部恵子	管理栄養士
	中村陽子	介護福祉士
	田崎智子	介護福祉士
	小泉真美	介護福祉士
	及川浩子	介護福祉士
	山崎朋佳	介護福祉士
	奥津弘美	看護師
9 ころとからだのしくみと生活支援技術 ⑨ 入浴、清潔保持に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護（１）	中村陽子	介護福祉士
	田崎智子	介護福祉士
	小泉真美	介護福祉士
	及川浩子	介護福祉士
	山崎朋佳	介護福祉士
	奥津弘美	看護師
9 ころとからだのしくみと生活支援技術 ⑨ 入浴、清潔保持に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護（２）	中村陽子	介護福祉士
	田崎智子	介護福祉士
	小泉真美	介護福祉士
	及川浩子	介護福祉士
	山崎朋佳	介護福祉士
	奥津弘美	看護師
9 ころとからだのしくみと生活支援技術 ⑩ 排泄に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護（１）	川上優貴	介護福祉士
	岩田健吾	介護福祉士
	中村陽子	介護福祉士
	田崎智子	介護福祉士
	小泉真美	介護福祉士
	及川浩子	介護福祉士
	山崎朋佳	介護福祉士

9 心とからだのしくみと生活 支援技術 ⑩ 排泄に関連した心とからだのしくみと自立に向けた介護（2）	川上優貴	介護福祉士
	岩田健吾	介護福祉士
	中村陽子	介護福祉士
	田崎智子	介護福祉士
	小泉真美	介護福祉士
	及川浩子	介護福祉士
	山崎朋佳	介護福祉士
9 心とからだのしくみと生活 支援技術 ⑪ 睡眠に関連した心とからだのしくみと自立に向けた介護（1）	奥津弘美	看護師
	中村陽子	介護福祉士
	田崎智子	介護福祉士
	小泉真美	介護福祉士
	及川浩子	介護福祉士
	山崎朋佳	介護福祉士
9 心とからだのしくみと生活 支援技術 ⑪ 睡眠に関連した心とからだのしくみと自立に向けた介護（2）	奥津弘美	看護師
	中村陽子	介護福祉士
	田崎智子	介護福祉士
	小泉真美	介護福祉士
	及川浩子	介護福祉士
	山崎朋佳	介護福祉士
9 心とからだのしくみと生活 支援技術 ⑫ 死にゆく人に関した心とからだのしくみと終末期介護（1）	高川広子	看護師
	奥津弘美	看護師
	中村陽子	介護福祉士
	田崎智子	介護福祉士
	及川浩子	介護福祉士
	山崎朋佳	介護福祉士
9 心とからだのしくみと生活	高川広子	看護師

支援技術 ⑫ 死にゆく人に関したしたこころとからだのしくみと終末期介護（２）	奥津弘美	看護師
	中村陽子	介護福祉士
	田崎智子	介護福祉士
	及川浩子	介護福祉士
	山崎朋佳	介護福祉士
9 こころとからだのしくみと生活支援技術 ⑬介護過程の基礎的理解（１）	中村陽子	介護福祉士
	田崎智子	介護福祉士
	小泉真美	介護福祉士
	山崎朋佳	介護福祉士
9 こころとからだのしくみと生活支援技術 ⑬介護過程の基礎的理解（２）	中村陽子	介護福祉士
	田崎智子	介護福祉士
	小泉真美	介護福祉士
	山崎朋佳	介護福祉士
9 こころとからだのしくみと生活支援技術 ⑭総合生活支援技術演習（１）	中村陽子	介護福祉士
	及川浩子	介護福祉士
	田崎智子	介護福祉士
	小泉真美	介護福祉士
	山崎朋佳	介護福祉士
9 こころとからだのしくみと生活支援技術 ⑭総合生活支援技術演習（２）	中村陽子	介護福祉士
	及川浩子	介護福祉士
	田崎智子	介護福祉士
	小泉真美	介護福祉士
	山崎朋佳	介護福祉士
10 振り返り ① 振り返り	中村陽子	介護福祉士
	及川浩子	介護福祉士
	田崎智子	介護福祉士

	小泉真美	介護福祉士
	山崎朋佳	介護福祉士
10 振り返り ② 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	中村陽子	介護福祉士
	田崎智子	介護福祉士
	及川浩子	介護福祉士
	小泉真美	介護福祉士

* 項目ごとに担当講師を記載すること。項目を分割した場合は分けて記載すること。

* 病気等による急な講師変更への対応も考慮し、担当することが想定される講師すべてを記載すること。

* 講師履歴で届出た担当科目項目と講師一覧に記載する科目項目を一致させること。

* 演習の補助講師についても記載すること。その場合は氏名に（補助講師）と書き添えること。

* 補助講師については、補助講師としてのみ届出た講師を記載すること。

* 本講師を行う項目について、補助講師として担当する可能性がある場合は補助講師の記載は不要。